

不動滝の上から

～三美地区滝ノ上遺跡発掘調査報告～

調査区全景 奥に那珂川を望む

調査地

平成25年11月から平成26年3月にかけて、三美地区で滝ノ上遺跡の発掘調査が行われました。その成果がまとまりましたので報告します。

今回の発掘調査では、縄文時代中期（約5000～4000年前）の環状集落^{かんじょうしゅうらく}の跡が見つかりました。環状集落とは、住居を円形に並べ、その内側に食糧の貯蔵穴や墓などを配置したムラで、この時代に特徴的なものです。

見つかった環状集落は直径約200mに及ぶ大規模なもので、数百年にわたり継続して営まれたものと考えられ、小規模な調査ながらも、住居の跡8軒、貯蔵穴等289基が密集して発見されました。

これらの中からは、この時期に特有の飾りの付いた大型の縄文土器が数多く出土しているほか、耳飾りや、石灰の塊のようになった貝殻など珍しい造物も発見されています。



▲作業の様子（大きな穴が貯蔵穴）

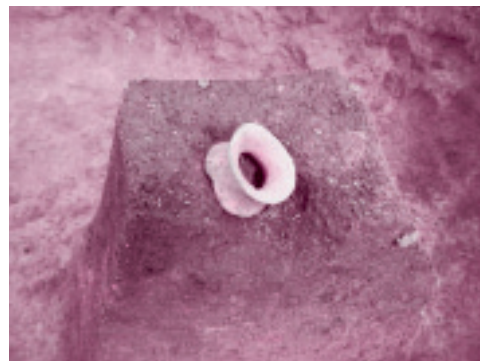
この時代の環状集落は、赤岩遺跡（三美地区・平成24年度調査）や、西埦遺跡（野口地区・平成21年度調査）等でも見つかっていて、当時の那珂川沿いの居住環境の良さを物語っています。



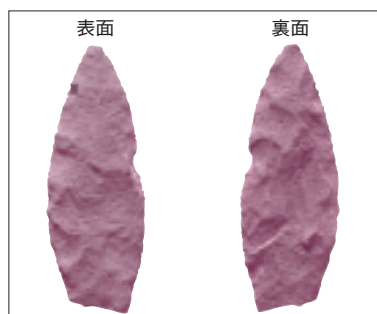
◀出土した土器



▲土器が出てきた～



▲耳飾りの出土の様子



このほか、弥生・古墳・平安時代や中世の生活の痕跡も見つかっています。なお今回の調査で最も古い遺物は、縄文時代草創期（約13,000～10,000年前）の石器でした。

◀縄文時代草創期の石器

今回の発掘調査で出土した縄文土器等は、歴史民俗資料館大宮館に新たに展示しました。ぜひ足を運んでみてください。

また、遺跡名となっている「滝ノ上」とは、大場ふる里音頭にも歌われた「不動滝（別名：そうめん滝）」の上の方を指す地名です。縄文人もきっと、この滝を見て暮らしていたことでしょう。



▲大きいね～ 何に使ったの？

*特別に許可を得て撮影しています

今回の発掘調査では、たくさんの方にご協力いただきました。

これらの成果は、私たちのふるさと常陸大宮市の成り立ちを知るための貴重な資料となります。ふるさとの歴史と文化を知り郷土愛を育むため、今後とも埋蔵文化財行政にご理解とご協力をよろしくお願い致します。

■問い合わせ■ 生涯学習課 生涯学習グループ ☎52-1111（内線362）
歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450